

平成31年度 全国学力・学習状況調査  
(平成31年4月18日 実施)

高石市立小・中学校

調査結果概要

令和元年10月  
高石市教育委員会

## 調査の概要

## (1) 調査の目的

- ア 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ 各学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ウ 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## (2) 調査内容

- I…教科に関する調査  
小学校：国語 算数  
中学校：国語 数学 英語
- II…アンケート調査  
児童生徒対象・学校対象

※平成31年度より  
小学校国語・算数、中学校国語・数学の  
A・B区分はなくなりました。

## (3) 調査対象

- 小学校第6学年（高石市：7校 児童数：492人）  
中学校第3学年（高石市：3校 生徒数：462人）

## (4) 調査実施日

平成31年4月18日（木）

## (5) 調査結果の取扱いについて

- 平成31年度調査は、全校調査で行われた。
- 本調査は、競争を目的とするものではなく、すべての子どもたちの学力や学習状況を把握し分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的としている。
- 本調査により測定できる学力は特定の一部であり、学校における教育活動の一側面を示すものである。

## 平均正答率からわかる本市小・中学校別結果の概要について

小学校	平均正答率（％）			中学校	平均正答率（％）		
	高石市 （公立）	大阪府 （公立）	全国 （公立）		高石市 （公立）	大阪府 （公立）	全国 （公立）
国語	59	60	63.8	国語	64	70	72.8
算数	65	66	66.6	数学	55	58	59.8
				英語	53	56	55.9

上表の本市平均正答率の数値データは、市内の全小学校・全中学校のデータに基づいて表しています。

※平成29年度より、国による都道府県の結果公表が整数値のため、本市及び大阪府の平均正答率は整数で表しています。

◇小学校では、国語、算数いずれも、全国平均・大阪府平均ともに下回っています。

◇中学校では、国語、数学、英語いずれも、全国平均・大阪府平均ともに下回っています。

# 学力調査結果 小学校

## 平均正答率 (%)

	高石市	大阪府	全国	対府差	対国差
国語	59	60	63.8	-1	-4.8
算数	65	66	66.6	-1	-1.6

## 無解答率 (%)

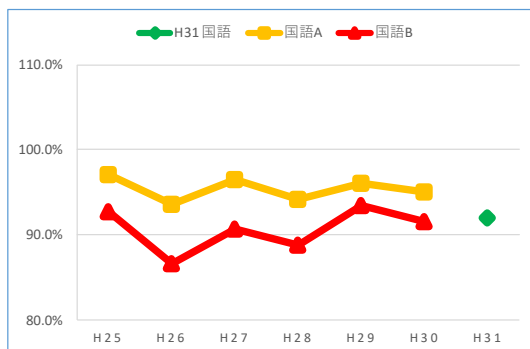
	高石市	大阪府	全国	対府差	対国差
国語	7	7	6.2	0	0.8
算数	4	3	2.7	1	1.3

## 【参考】対全国比の経年比較

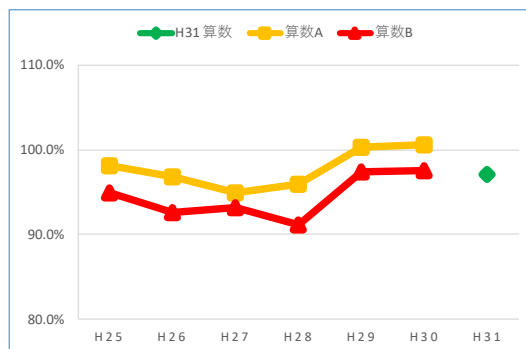
※ H31年度よりA・B区分がなくなりました。

※ 全国平均正答率を100%としたときの各教科の平均正答率の推移

### 国語



### 算数



## 各教科の状況

### ○小学校国語

平均正答率は59%で、全国を4.8%下回った。すべての領域について課題が大きく、特に「話すこと・聞くこと」に課題が見られ、話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をすることができていない児童が多い。

(課題となる問題例を P.13に掲載しております)

小学校国語	領域	市	国	国比
	話すこと・聞くこと	65.6	72.3	90.7%
	書くこと	50.4	54.5	92.5%
	読むこと	77.4	81.7	94.7%
	言葉等の知識や理解	48.5	53.5	90.7%

### ○小学校算数

平均正答率は65%で、全国を1.6%下回った。「数量関係」領域についてはおおむねできているが、「量と測定」領域には課題が見られ、示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述することができていない児童が多い。

(課題となる問題例を P.14に掲載しております)

小学校算数	領域	市	国	国比
	数と計算	61.4	63.2	97.2%
	量と測定	49.8	52.9	94.1%
	図形	74.6	76.7	97.3%
	数量関係	67.0	68.3	98.1%

※ 平均正答率・無解答率について

平均正答率とは、各設問について算出された正答及び無解答の割合を平均したものです。

無解答とは、各設問について、白紙解答だけでなく、「わかりません」と記載しているなど、設問の意図と関連のない内容を記載した場合も含めた割合を平均したものです。

# 学力調査結果 中学校

## 平均正答率 (%)

	高石市	大阪府	全国	対府差	対国差
国語	64	70	72.8	-6	-8.8
数学	55	58	59.8	-3	-4.8
英語	53	56	55.9	-3	-2.9

## 無解答率 (%)

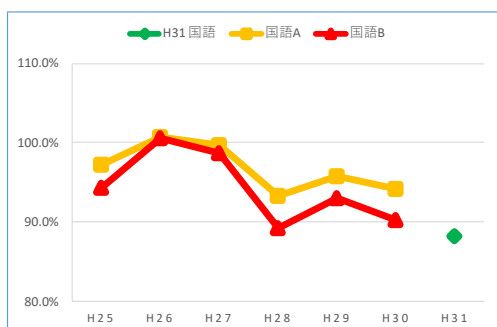
	高石市	大阪府	全国	対府差	対国差
国語	6	3	2.6	3	3.4
数学	12	9	7.3	3	4.7
英語	10	7	6.0	3	4.0

## 【参考】対全国比の経年比較

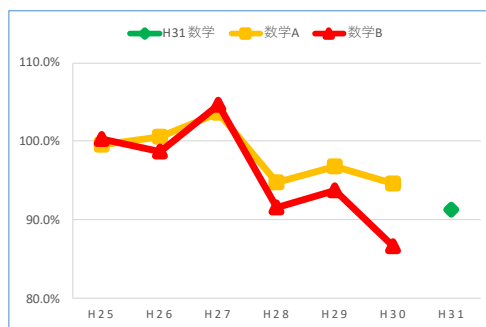
※ H31年度よりA・B区分がなくなりました。

※ 全国平均正答率を100%としたときの各教科の平均正答率の推移

### 国語



### 数学



## 各教科の状況

### ○中学校国語

平均正答率は64%で、全国を8.8%下回った。どの領域でも、選択して答える問題は正答率が高いが、記述式の問題に課題が見られる。伝えたい事柄について、根拠を明確にして書くことや自分の考えを書くことができていない生徒が多い。

(課題となる問題例を P.15 に掲載しております)

中学校国語	領域	市	国	国比
話すこと・聞くこと	話すこと	61.4	70.2	87.5%
	書くこと	73.3	82.6	88.7%
	読むこと	63.5	72.2	88.0%
	言葉等の知識や理解	60.2	67.7	88.9%

### ○中学校数学

平均正答率は55%で、全国を4.8%下回った。「関数」の領域の、座標を求める問題は全国平均正答率を上回ったが、領域全体には課題が見られる。数式や図形についての結論が成り立つ説明や、資料を読み取り理由を説明することができていない生徒が多い。

(課題となる問題例を P.16 に掲載しております)

中学校数学	領域	市	国	国比
数と式	数と式	56.9	63.8	89.2%
	図形	67.9	72.4	93.8%
	関数	38.9	40.8	95.3%
	資料の活用	50.2	56.3	89.2%

### ○中学校英語

平均正答率は53%で、全国を2.9%下回った。小学校の外国語活動で慣れ親しんだ簡単な語句や文で書かれた内容については、正確に読み取ることができている生徒が多いが、領域別では「書くこと」に課題が見られ、無解答率も高く、与えられた情報に基づいて人物を説明する英文を正確に書くことができていない生徒が多い。

(課題となる問題例を P.17 に掲載しております)

中学校英語	領域	市	国	国比
聞くこと	聞くこと	64.7	67.9	95.3%
	読むこと	52.2	55.6	93.9%
	書くこと	43.0	45.8	93.9%

# 質問紙調査の結果概要

単位は、%

	質問項目	高石市				全国				
		H28	H29	H30	H31	H28	H29	H30	H31	
①	朝食を毎日食べている	小	93.9	92.8	92.3	92.7	95.5	95.4	94.5	95.3
		中	91.6	91.4	90.2	90.9	93.3	93.2	91.9	93.1
②	自分にはよいところがある	小	67.5	73.2	77.8	72.9	76.3	77.9	84.0	81.2
		中	58.9	65.5	61.4	62.1	69.3	70.7	78.8	74.1
③	将来の夢や目標をもっている	小	83.4	85.3	83.6	82.4	85.3	85.9	85.1	83.8
		中	68.5	69.9	69.7	66.1	71.1	70.5	72.4	70.5
④	人の役に立つ人間になりたいと思う	小	91.0	90.5	94.7	93.7	93.8	92.5	95.2	95.2
		中	90.9	91.4	92.5	91.1	92.8	91.9	94.9	94.3
⑤	いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う	小	95.2	94.4	96.0	97.8	96.6	96.1	96.8	97.1
		中	89.1	88.3	91.0	86.8	93.6	92.8	95.5	95.1
⑥	学校のきまりをまもっている	小	86.1	90.0	78.7	87.6	91.5	92.6	89.5	92.3
		中	89.4	93.2	93.3	89.3	94.7	95.2	95.1	96.2
⑦	学校の授業以外の読書時間が30分以下（月～金）	小	71.5	70.7	68.7	64.9	63.5	63.4	58.7	60.2
		中	77.5	79.7	80.4	84.0	71.8	70.6	69.0	73.0
⑧	家庭学習の時間が30分以下（月～金）	小	18.8	19.8	19.5	17.9	11.9	11.3	9.9	9.9
		中	22.4	20.7	22.9	18.9	14.4	13.2	12.8	12.8
⑨	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか	小	50.6	51.6	56.3	64.8	62.2	64.5	67.6	71.5
		中	44.8	47.3	47.6	45.6	48.4	51.5	52.1	50.4
⑩	話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている	小	53.8	58.8	69.5	66.0	68.3	68.2	77.7	74.1
		中	54.4	51.0	56.8	60.5	64.8	64.8	76.3	72.8
⑪	先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか	小	68.8	72.1	69.1	74.4	77.8	77.9	76.7	77.7
		中	62.7	*	*	65.5	73.8	*	*	74.8
⑫	自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか	小	51.7	57.5	53.7	54.8	64.2	64.9	61.0	62.5
		中	46.3	42.0	38.7	47.2	57.7	57.9	53.8	55.8
⑬	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	小	86.9	87.9	*	90.7	89.2	87.9	*	91.2
		中	79.7	74.2	*	79.3	84.6	83.3	*	88.0
⑭	算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	小	86.4	89.2	89.6	91.3	89.9	89.1	90.3	92.5
		中	71.1	64.1	65.8	62.5	71.5	72.4	72.9	76.2

※ 表における「\*」は、その年度、調査がなかったことを示します。

## 傾向について

②③④の項目は、小中学校とも全国より低く、依然として、自己肯定感の低さが課題です。

⑤の項目は、小学校では全国より高くなり、取組みの成果がみられます。引き続きいじめは絶対にゆるされないということ子どもたちに気付かせる取組みを進めていきます。

⑦の項目は、小学校では改善がみられますが、依然として全国より高い傾向が続いており、引き続き、読書活動の充実に向けた取組みを進めていく必要があります。

⑧の項目は、全国より高い傾向が続いていますが、小中学校とも、昨年度より改善しています。同時に、⑨の項目においても小学校では改善傾向がみられます。また、①の項目は、全国より低い傾向が続いています。引き続き、家庭との連携が必要であり、啓発をしていきます。

⑩の項目は、中学校では、昨年度より改善されておりますが、小中学校とも全国より低くなっております。今後とも各学校において、児童生徒が主体的に取り組める授業づくりを進めていく必要があります。

⑪・⑫の項目は、全国より低い傾向が続いていますが、昨年度より改善しています。今後も、主体的・対話的で深い学びに向けた授業研究に取り組んでまいります。

⑬・⑭の項目は、小学校と中学校で差がみられます。授業の内容が、より児童生徒の「生きる力」につながるものとなるよう、授業研究に取り組む必要があります。

今後の取組みについて、P. 6～P. 9を参照ください。

## 調査結果から

本年度の全国学力・学習状況調査の結果を分析・考察した結果、  
学力については、記述式の問題における誤答率は依然高い傾向があり、

### 「筋道立てた思考をし、自分の考えを書く力」

の育成が課題です。

日々の学習指導の中で、

「目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書く活動」

「事柄の特徴を数学的な表現を用いて書く活動」

「話し合いを通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする活動」 等

効果的な言語活動や学習活動をより充実させ、表現力の伸長を目標とした取組みを進めていきます。

一方で、これまで課題であった無解答率については、小学校については改善傾向がみられます。これは、各校で推進している少人数・習熟度別授業におけるきめ細かな指導や小中連携推進支援事業を通して9年間を見通した日々の主体的・対話的で深い学びをめざした授業改善の取組み等による成果と考えます。しかし、中学校では比較的高い傾向がみられます。生徒が自分の考えを表現する機会を設定するなど、自信をもって課題に取り組むことができる授業づくりをめざします。今後も引き続き、各学校と教育委員会が連携し、児童生徒の学力向上をめざした取組みを進めていきます。

質問紙調査において、

### 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」

について、小学校においては、昨年度の数値を上回り、全国平均を上回りました。今後も道德教育等、様々な学習活動を通して「いじめは絶対に許されない」という意識が向上するよう取組みを進めていきます。

また、「家庭学習の時間」「読書をする時間」について、短時間しかしらない人、全くしない人の割合が、依然として全国よりも非常に多いことが課題です。

学校で学んだことを定着させるためには、家庭学習にしっかりと取り組むことが大切です。また、文章を読み取る力は、読書量と大きく関わります。家庭学習の時間や読書の時間を充実させられるよう、機会設定、啓発等に取り組んでいきます。

課題解決を行う方策としましては、各学校において、今回の調査でみとった課題に正対した授業改善の取組みを行います。取組み内容につきましてはP. 7～P. 8に記載しております。

今回の結果を受けて、引き続き「家庭学習・読書」の課題を重点として、ご家庭の協力をお願いします。また、P. 11・P. 12に、家庭での過ごし方等、参考にしていただける資料及びワークシートを掲載していますので、併せてご協力をお願いします。

また、市独自のアンケート結果より、スマートフォンの使用時間と就寝時間等に関連がみられました。結果からは、3時間以上使用することによる影響が大きいことがうかがえます。P. 11に掲載のリーフレット等を参考に、スマートフォンの使用時間等のルール作りについてご家庭でも話し合ってください。

【P. 6より高石市教育委員会・各学校の取組みと、家庭・地域の皆様にご協力いただきたい点をまとめて記載しております。】

### 今年度の結果を受けた取組みについて

- ◇ 学力向上に向け、各学校の取組み(P.8～P.9参照)に沿って、指導主事による授業参観や指導助言を実施していきます。
- ◇ 教育委員会としては、P.7の「教育委員会による学校への指導助言事項」に基づいて各校への指導助言を行います。
- ◇ 令和2年度から施行される、新学習指導要領に示された目標を達成するため、示範授業の実施や指導助言等、指導主事が継続して学校を支援していきます。

### 継続した取組みについて

- ◇ 学力向上専門員が各学校の授業を参観し、児童生徒への実践的指導力、学校体制づくり等の指導を行い、各学校の授業改善に努めています。
- ◇ 各学校が立てた「学力向上大作戦」に基づいて、児童生徒が主体的、対話的で深い学びができる授業づくりを推進していくために、示範授業の実施や指導助言等、指導主事が継続して学校を支援しています。
- ◇ 各学校に、学校司書を配置し、児童生徒の情報を活用する力の育成を支援しています。併せて、読書活動の推進も支援し、公共図書館との連携も図っています。
- ◇ 放課後や、長期休業期間に実施する補充学習へのボランティアを募集し、学校での学習のサポート活動を進めています。
- ◇ 外国語教育を推進することにより、子どもたちのコミュニケーション力の素地を育むとともに、児童生徒と外国人留学生との交流等を通して、実践的に外国語を学ぶ機会を増やしています。
- ◇ 児童生徒が、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳教育を推進し、指導助言や研修の実施等、学校を支援しています。
- ◇ 高石市いじめ防止基本方針に基づく、いじめに対する指導の徹底を図っています。
- ◇ 児童生徒にわかりやすい授業を推進していくために、各学校にタブレット端末、デジタル教科書の導入及びICT支援員の配置をしています。効果的なICT機器の活用に向けた研修の実施等、学校を支援しています。
- ◇ スマートフォン等の使用について、今年度も「スマホアンケート」を実施し、その結果をもとに「高石スマホサミット」を開催するなど、子どもたちがスマートフォン等の使い方について考える機会を設定し、スマートフォン等の使用モラルの向上に努めていきます。

## 教育委員会による学校への指導助言事項

各校に対して、下記の内容について重点的に指導助言を行います。

### ① 学校ぐるみで、調査結果を分析し、課題をみつけ、課題解決の実践を行う

学習の主体者である子どもが確かな学力を身につけることができるよう、結果分析から校内での学力向上担当者を中心に『授業改善』『指導体制の工夫』『学習集団づくりや学び方の指導』『家庭学習の充実』の4つの観点から取組内容を具体化し全教員で推進する。(指導をやりきる)

### ② 学力向上大作戦の取組を検証し、新規見直しを図る

平成25年以降開始している各校の「学力向上大作戦」について改めて自校における取組の検証を行い、プランニングが、プランのままに形骸化していないかを再度点検する。

プランニングした内容については、見直し再検討も含め、学校挙げて決定した取組については必ず取組んで行くよう9月以降速やかに実施すること。

### ③ 支援が必要な子どもへの補充学習の充実を図る

基礎学力の定着を図る上で、放課後に補充的学習機会として実施している「高石っ子学び舎」について、授業内容や、一人ひとりの学習状況を見極めたうえで、参加の促しを保護者等と連携をはかり一斉授業では理解が難しい子どもへの支援対策として実施すること。その際、各担任あるいは担当教員は、「高石っ子学び舎」の指導者と十分な連携を図り、対象の子どもへの支援策を考えて行うこと。

### ④ PTA、学校評議員等に調査を公表することから、家庭・地域の協力を促す

自校の学力実態や、生活実態をPTA 実行委員会や学校評議員会において具体的に知らせ、改善策について意見を聞きながら、今後の方針を明確にするとともに、学校で丸抱えせず家庭や地域を巻き込みながら地域ぐるみで次代に地域を担う子どもたちを育てていく風土を形成すること。

実態についてオープンすることで支援してもらうところは積極的に支援してもらう姿勢を示すこと。

### ⑤ 基本指導過程を確立し、新しい授業方法を研究し、実践する

「高石っ子を育みの授業スタンダード」を全教職員で理解し、主体的で対話的な深い学びとなる授業づくりに努めること。その授業づくりにおいては、ICT 機器活用をする場面や方法などを検討し、効果的に活用する授業の実現をめざすこと。平成29年度からスタートしている小中連携推進事業(トリプル5プロジェクト)の必須課題でもある。

### ⑥ 授業改善の研究を年次・学期・月次の計画スパンで研修を実施する

校内研修に外部講師を招聘し、継続した指導の充実を図り、教員の個々の授業力向上を重点とする研修を実施すること。また、先進校の授業視察、公開授業に教員を派遣し、外部で学んだ研修内容を校内へ還元する方法をシステム化すること。

市教育委員会指導主事、管理職等の校内巡回指導を定期的実施し、授業への指導助言を日常化すること。



## 学校での取組み

☆ 今年度の調査から見える課題を踏まえ、各校の「学力向上大作戦」をもとに、学校が重点的に取り組むことを下記に記載しています。

### 高石小学校

自分の考えを表現したり理由を述べたりすることの課題を解消するために、文章の意図を正確に読み取り、理由や自分の考えを明確にしながら書く力をつけることをめざす。

そのために、授業力の向上をめざし、毎時間の「ふり返り」がより効果的なものとなるよう工夫することに全教職員が徹底して取り組む。

### 羽衣小学校

与えられた条件を満たして書くことの課題を解消するために、自分でじっくりと考え、友だちの考えをふまえて書く力をつけることをめざす。

そのために、授業の中で目的に応じた語彙を使って書く場面を設定することに全教職員が徹底して取り組む。

### 高陽小学校

記述問題における、情報を読み取ったり、適切に自分の考えを書いたりすることの課題を解消するために、文章の内容を的確に押さえながら、読み取ったり書いたりする力をつけることをめざす。

そのために、授業の中で自分の考えを書く時間の確保に全教職員が徹底して取り組む。

### 取石小学校

情報を相手にわかりやすく伝えたり、話し手の意図をとらえて自分の考えをまとめたりすることの課題を解消するために、語彙数を増やし、考えたことを相手に正しく伝える力をつけることをめざす。

そのために、文章や資料に対する自分自身の考えを明確にして、互いの感想や意見を伝え合う場を設定することに全教職員が徹底して取り組む。

### 東羽衣小学校

自分の考えを表したり、友だちの考えを理解したりすることの課題を解消するために、友だちの考えをふまえて自分の考えを表現する力をつけることをめざす。

そのために、自分の考えを書くことへの支援と時間の確保、友だちの考えを聞く場を設定することに全教職員が徹底して取り組む。

### 清高小学校

要約して書き表す力や、自分の考えを書く力の課題を解消するために、課題を的確に把握し、自分の考えを書く力を身につけることをめざす。

そのために、授業の中で、自分の考えを書いたり伝えたりする場面を設定することに全教職員が徹底して取り組む。

### 加茂小学校

問題を正しく理解し、自分の思いや考えをまとめて書く力の課題を解消するために、文章を要約したり自分の思いや考えを書いたりする力をつけることをめざす。

そのために、国語の授業において、児童が「ふりかえりメニュー」を活用し、自分の思いや考えを書く時間を確保することに全教職員が徹底して取り組む。

### 高石中学校

自分の考えを書くなど、記述に課題があると捉え、その課題を解消するために、必要な情報を得て、その情報をもとに「書く」力をつけることをめざす。

そのために、資料等から必要な情報を選択し、自分の考えを「書く」場面を設定することに全教職員が徹底して取り組む。

### 高南中学校

文章等での表現力にみられる課題を解消するために、自分の考えを、言葉で正しく表現する力をつけることをめざす。

そのために、自分の考えを表現する場面を設定することに全教職員が徹底して取り組む。

### 取石中学校

相手に伝わるよう発表する力の課題を解消するために、根拠をもとにわかりやすく伝える力をつけることをめざす。

そのために、全ての教科において、自分の考えを整理したり書いたりする時間を確保することに全教職員が徹底して取り組む。

## 家庭・地域にご協力いただきたいこと

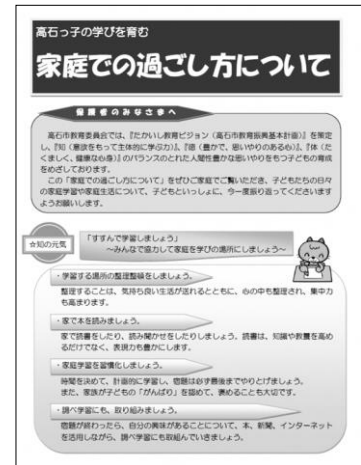
- ◆ 朝食を摂ることは、効果的に学習に取り組むためにとっても重要です。毎日朝食を摂って、朝からしっかり学習活動に取り組めるよう、引き続きご協力をお願いします。
- ◆ 「他人を認め、自分を大切にすること（自己肯定感）」の大切さをご家庭でもお話していただきますようお願いいたします。
- ◆ ご家庭における読書の機会設定や子どもたちへの啓発についてご協力をお願いします。
- ◆ 各学校における「家庭学習のてびき」等を参考にさせていただき、子どもたちの宿題の確認や、学校の予習・復習等の自主的な家庭学習に対する意欲向上へのご協力をお願いします。
- ◆ 携帯電話・スマートフォンやゲーム機の使用など、家庭におけるルール作りと、そのルールの尊重について、子どもと話し合っていたいただきたいと思います。
- ◆ 「学校通信」等をご覧いただき、行事や取組みへのご理解とご協力をお願いします。
- ◆ 学校のさまざまな学力向上等の取組み（授業支援や図書、放課後学習活動等のボランティア等）についてご協力をお願いします。
- ◆ P T A 活動へのご参加とご協力をお願いします。
- ◆ 各中学校区の「すこやかネット」の活動へのご参加とご協力をお願いします。

# 参考資料及びワークシート

## ◆各学校から出されている家庭学習のてびき等

## ◆高石っ子の学びを育む 家庭での過ごし方について (高石市教育委員会から配布)

○ 小学校1年生から中学校3年生までの家庭学習を行う際にヒントとなるポイント等についてまとめたリーフレットです。



## ◆ケータイ・スマホの使い方について (高石市教育委員会から配布)

○ケータイ・スマホ使用の家庭でのルールづくり・学校への持ち込み禁止等、使い方についてまとめたリーフレットです。

保護者の皆様 高石市教育委員会

〔高石市立小中学校内での「スマホ等」の取り扱いについて〕  
★学校への児童・生徒の「スマホ等」の持ち込みは原則禁止です。

家庭と同様に、ルールを決めずに学校に「スマホ等」を持ち込むことは、様々なトラブルにつながります。学校への「スマホ等」の持ち込みについては、**学校、保護者、児童生徒が一体となって、相互が理解しあえる一定のルールづくりが必要と考えます。**そのため、今後、関係する方々のご意見や国の情勢等をふまえて、検討を重ねて慎重に対応する必要がありますので、高石市教育委員会では、引き続き「スマホ等」の学校への持ち込みを原則禁止といたします。

**保護者の皆様のご理解とご協力が必要です。**

ご家庭におかれましても、子どもが「スマホ等」を使用する際には、家庭内で必ずルールを作るなど、持たせる責任者としての責務を果たしましょう。

**「やめよう！」と子どもたちに伝えてください。**

- スマホ等でのネット上の誹謗中傷は、犯罪につながります。
  - 人の悪口をブログや掲示板に書き込む行為
  - 「なりすましメール（人の名前をかたったメール）」を送る行為
  - 他人の個人情報や画像をネット上で公開する行為
 ☆ネット上の書き込みは、「だれが悪いのか」の記録が残ります！
- サイトには危険がいっぱいです。
  - 出会い系・架空請求サイトなどへのアクセス
  - 知らない人からのメールへの返信
  - 個人情報の安易な書き込み
- 携帯ゲーム機にも危険が！
  - 知らない人と通信できる。(無線でのデータのやり取りなど)
  - 匿名（ニックネーム）で通信するので、相手がわからない。
 ☆つまり・・・インターネットと同じ危険がある！

学校への「スマホ等」の持ち込みは原則禁止です

「スマホ等」の使用状況について

タブレット端末や携帯電話・スマートフォン等の情報機器（以下「スマホ等」と表記）は、上手に使うと私たちの日常生活や仕事に役立つ、便利な道具です。しかし、「スマホ等」を子どもたちに持たせることで、子どもたちの世界が大きく変わり、様々なトラブルに巻き込まれるケースが発生しています。また、長時間の使用により学習時間が減少し、学力の低下につながることも心配されています。

実際、アンケート結果から、「スマホ等」で12時間以上インターネットを使用する子どもについては、「12時より遅く寝る」ことや、「よくイライラする」こと、「勉強に自信がない」と感じる傾向が多くなる傾向がうかがえます。子どもたちが「スマホ等」を使う際は、「スクリーンタイム」等を使って時間制限を設けることや、有害サイトは閲覧できないよう「フィルタリング設定」を行う等のルール作りをして適切に使用することが大切です。しかし、保護者とのルールを決めている子どもは、学年が上がるにつれて減少する傾向があり、友だちとのルールはほとんど決められていないということがうかがえます。

情報モラル教育は、家庭での取り組みが大切です。子どもに要求されるまま、むやみに買い与えるのではなく、使用目的や危険性、ルールやマナーについて、各家庭においてしっかりと話し合い、保護者として心配していることや然るをつけてほしいことをしっかりと伝えてください。現在の「スマホ等」は、単なる「電話」ではなく「インターネット端末」でもあることをふまえて、本当に子どもに持たせる必要があるのか、どうしても「スマホ等」がないとダメな状況があるのか、よく考えていただきますようお願いいたします。

平成21年 4月 高石市教育委員会

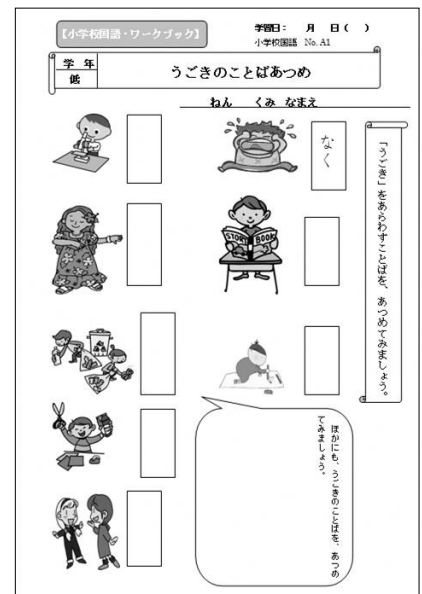
◆ 自学自習力をはぐくむワークブック問題  
 (大阪府教育委員会が配信)

- 小・中学校全学年の児童生徒が、放課後学習や家庭学習において自主的に学習することができる教材です。

各学校でも活用しています。

HPアドレス

<http://www.osaka-c.ed.jp/kate/karicen-folder/workbook-for-pref/workbook-index.htm>



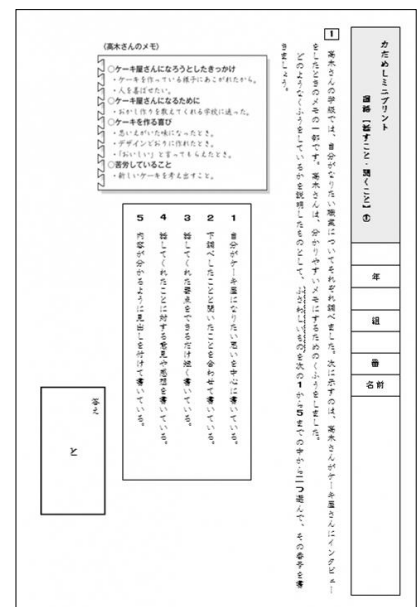
◆ かだめしプリント・かだめしミニプリント  
 (大阪府教育委員会が配信)

- 小・中学校の児童生徒に身につけさせたい学力の中で、知識・技能を活用する力を問う学習教材です。

各学校でも活用しています。

HPアドレス

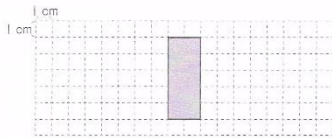
<http://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/chikaramini/index.html>





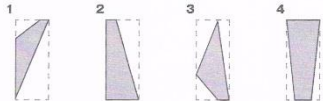
1

下のような長方形の紙( )があります。方眼紙は、1目もり1cmです。

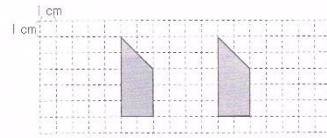


(1) ゆうたさんは、上のような長方形の紙を直線で切って、下の1から4までの図形をつくりました。

下の1から4までの中で、台形はどれですか。  
2つ選んで、その番号を書きましょう。



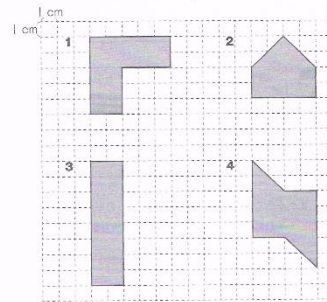
(2) ちひろさんは、次のように、2つの合同な台形をつくりました。



上の2つの合同な台形を、ずらしたり、回したり、裏返ししたりして、同じ長さの辺どうしを合わせ、いろいろな形をつくります。

どのような形をつくることができますか。

下の1から4までの中からすべて選んで、その番号を書きましょう。



(3) ゆうたさんたちは、2つの合同な台形で作られた図1の形の面積を求めようとしています。

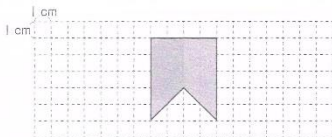


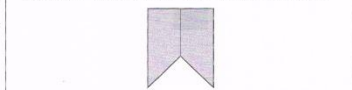
図1

ゆうたさんは、図1の形の面積を、次のように求めました。

【ゆうたさんの求め方】  
 $(3+5) \times 2 \div 2 = 8$   
 $8 \times 2 = 16$       答え 16 cm<sup>2</sup>



図1の形を、下の図のように、合同な台形2つとみました。



まさるさんは、【ゆうたさんの求め方】の中の「 $8 \times 2$ 」が、どのようなことを表しているのかを、下のように説明しました。



8は、1つの台形の面積を表しています。  
 $8 \times 2$ は、1つの台形の面積を2倍していることを表しています。

図1の形の面積は、16 cm<sup>2</sup>であることがわかりました。



私は、ほかの求め方を考えました。

【ちひろさんの求め方】  
 $5 \times 4 = 20$   
 $4 \times 2 \div 2 = 4$   
 $20 - 4 = 16$       答え 16 cm<sup>2</sup>

【ちひろさんの求め方】の中の「 $20 - 4$ 」は、どのようなことを表していますか。「20」と「4」がどのような図形の面積を表しているのかわかるようにして、言葉や数を使って書きましょう。

※ 必要ならば、下の図1を使って考えてもかまいません。

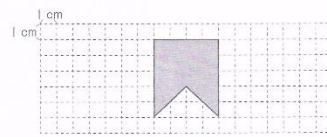


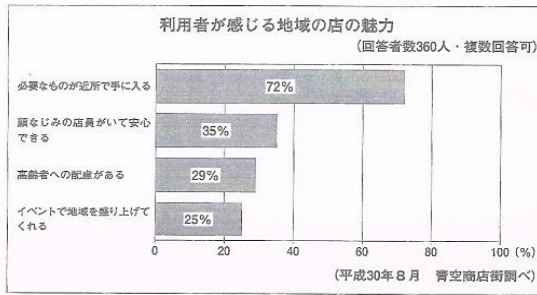
図1

解説 領域「図形」に関する問題 1-(3)

示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できるかどうかをみる問題です。

図形の学習では、図形の性質や構成要素に着目し観察や構成などの活動を通して図形についての実感的な理解を深めたり、図形の構成の仕方や計量の仕方について筋道を立てて考察したりすることが重要です。

図形の構成についての見方を働かせ、複数の形を組み合わせた図形の面積の求め方を、筋道を立てて考察し表現したりする力に課題が見られます。



【広報紙の一部】

② ①  
我が家でも買い物物の仕方を見直し、インターネットだけでなく地域の店も積極的に利用し、その店を通して地域の魅力を感じたい。皆さんも毎日の暮らしに目を向けて、地域とのつながりに改めて考えてみてはどうだろうか。

最近、我が家ではインターネットを利用して買い物をする機会が増えている。それは、店に行かなくても豊富な商品を選べる上、重い荷物を持たなくてよいからだ。母も「便利になった」と喜んでいる。これは、インターネットでの買い物ならではの良さだ。しかし、母が買いたい物の多くをインターネットで済ませるようになったら、地域の店はいったいどうなってしまうのだろうか。

地域の店はこれからも必要だ。なぜなら、地域の店には、インターネットでの買えない魅力があるからだ。私は昨年度、学校の近くの店で職場体験をした。その店では、インターネットでは出回らない、地元の特産品を販売していた。私が自宅で作っている箸もその店で買ったもので、地元の木で作られている。他では買えないその土地ならではの商品を、手に取って選ぶことができるのは、地域の店の魅力だ。

3  
青木さんは、「地域と私たちとのつながり」というテーマで意見文を書いています。次は、青木さんが書いた「意見文の下書き」を、読み返したあと新たに取材して見つけた、青木さんが住んでいる地域の「広報紙の一部」です。これらを読み、あとの問いに答えなさい。

【意見文の下書き】

また、昨年八月に青空商店街が行ったアンケート「利用者が感じる地域の店の魅力」の結果からも分かることがある。例えば、

※ 次のページの枠は、下書きに使用してもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

1 たとえ我が家がインターネットを利用しても、  
2 たとえ我が家が地域の店を利用しなくても、  
3 いくらインターネットが便利でも、  
4 いくら地域の店が便利でも、

二 青木さんは、「意見文の下書き」の「線部」の具体例に自分の体験を添えるだけでは足りないと考え、「広報紙の一部」にある情報を用いて、このように文章を書き加えることにしました。あなたなら、どのような文章を書き加えますか。次の書き出しに続けて、「広報紙の一部」を見ていない人にも分かるように書きなさい。

なお、読み返して文章を書いたときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

書き出し

また、昨年八月に青空商店街が行ったアンケート「利用者が感じる地域の店の魅力」の結果からも分かることがある。例えば、

一 青木さんは、読み手にとってより分かりやすい文章にするために、「意見文の下書き」の①のところに言葉を入れて書き直すことにしました。書き加える言葉として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

解説 領域「書くこと」に関する問題 3-二

伝えたい事柄について、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる問題です。説得力のある文章にするためには、自分の考えを支える根拠として文章や資料から必要な情報を取り出し、読み手に分かりやすい説明を加えることが重要です。

情報を用いて、具体的な例を挙げて、適切な文章を書く力に課題が見られます。



# 中学校数学

9 拓斗さんと若菜さんは、連続する3つの奇数の和がどんな数になるかを調べています。

1. 3, 5 のとき  $1 + 3 + 5 = 9 = 3 \times 3$   
 5, 7, 9 のとき  $5 + 7 + 9 = 21 = 3 \times 7$   
 13, 15, 17 のとき  $13 + 15 + 17 = 45 = 3 \times 15$

拓斗さんは、これらの結果から次のことを予想しました。

予想1

連続する3つの奇数の和は、中央の奇数の3倍になる。

上の予想1がいつでも成り立つことは、次のように説明できます。

説明1

$n$  を整数とすると、連続する3つの奇数は、 $2n+1$ 、 $2n+3$ 、 $2n+5$ と表される。それらの和は、  
 $(2n+1) + (2n+3) + (2n+5)$   
 $= 2n+1 + 2n+3 + 2n+5$   
 $= 6n+9$   
 $= 3(2n+3)$   
 $2n+3$  は中央の奇数だから、 $3(2n+3)$  は中央の奇数の3倍である。  
 したがって、連続する3つの奇数の和は、中央の奇数の3倍である。

次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

(1) 説明1では、 $6n+9$ を $3(2n+3)$ と変形しています。このように変形するのは、次のことを示すためです。□①に当てはまる式と、□②に当てはまる数を書きなさい。

連続する3つの奇数 $2n+1$ 、 $2n+3$ 、 $2n+5$ の和が、中央の奇数を表す式である□①の□②倍であること。

(2) 二人は、連続する4つの奇数や5つの奇数の和について考えることにしました。若菜さんは、連続する5つの奇数には中央の奇数があることから、中央の奇数に着目して連続する5つの奇数の和について調べました。

1. 3, 5, 7, 9 のとき  $1 + 3 + 5 + 7 + 9 = 25 = 5 \times 5$   
 3, 5, 7, 9, 11 のとき  $3 + 5 + 7 + 9 + 11 = 35 = 5 \times 7$

若菜さんは、これらの結果から次のことを予想しました。

予想2

連続する5つの奇数の和は、中央の奇数の5倍になる。

上の予想2がいつでも成り立つことを説明します。下の説明2を完成しなさい。

説明2

$n$  を整数とすると、連続する5つの奇数は、 $2n+1$ 、 $2n+3$ 、 $2n+5$ 、 $2n+7$ 、 $2n+9$ と表される。それらの和は、

$$(2n+1) + (2n+3) + (2n+5) + (2n+7) + (2n+9)$$

=

(3) 二人は、連続する4つの奇数の和がどんな数になるかを話し合っています。

若菜さん「連続する3つの奇数や5つの奇数には中央の奇数があるけれど、連続する4つの奇数には中央の奇数がないね。」

拓斗さん「でも、連続する4つの奇数の和は何らかの数の4倍になるのではないかな。」

そこで、拓斗さんは、 $n$ を整数として、連続する4つの奇数を、 $2n+1$ 、 $2n+3$ 、 $2n+5$ 、 $2n+7$ と表し、それらの和を次のように計算しました。

拓斗さんの計算

$$(2n+1) + (2n+3) + (2n+5) + (2n+7)$$

$$= 2n+1 + 2n+3 + 2n+5 + 2n+7$$

$$= 8n+16$$

$$= 4(2n+4)$$

上の拓斗さんの計算から、連続する4つの奇数の和は $2n+4$ の4倍になることがわかります。 $2n+4$ はどんな数ですか。正しいものを、下のアからオまでの中から1つ選びなさい。

- ア 連続する4つの奇数のうち小さい方から2番目の奇数  
 イ 連続する4つの奇数のうち小さい方から3番目の奇数  
 ウ 連続する4つの奇数のうち小さい方から1番目の奇数と2番目の奇数の間にある偶数  
 エ 連続する4つの奇数のうち小さい方から2番目の奇数と3番目の奇数の間にある偶数  
 オ 連続する4つの奇数のうち小さい方から3番目の奇数と4番目の奇数の間にある偶数

## 解説 領域「数と式」に関する問題 9-(2)

目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる問題です。

数学的な見方や考え方を働かせ、具体的な事象の中に数量の関係を見だし、それを文字を用いて式に表現したり式の意味を読み取ったりすることが重要です。

式を用いて説明を完成する力に課題がみられます。

9

(1) 次の①、②について、( ) 内に入れるのに最も適切な語を、それぞれ 1 から 4 までの中から 1 つ選びなさい。

① Let's play tennis tomorrow ( ) it's sunny.

1 and      2 if      3 but      4 or

② I saw a friend of mine at the station, ( ) I had no time to talk to him.

1 if      2 or      3 but      4 because

(2) 次の①、②について、例を参考にしながら、必要があれば ( ) 内の語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、それぞれ会話成り立つように英語を完成させなさい。

(例) <放課後に図書室で>

A : Can you help me now?

B : Sorry. I ( do ) my homework now.

[答え] am doing

① <朝の通学路で>

A : I watched a baseball game yesterday. It was so exciting.

B : Oh! ( like ) baseball?

A : Of course. I love playing and watching baseball.

② <休み明けに教室で>

A : Was your vacation good?

B : Yes. My family and I went to Australia.

( stay ) there for two weeks.

A : Wow! Wonderful.

課題 領域「書くこと」に関する問題 9 - (1)、(2)

文の中で適切に接続詞を用いることができるかどうか、一般動詞の正しい表現を用いて文を正確に書けるかどうかをみる問題です。

正しく文を書くためには、接続詞などの語句の用法や文法事項を理解して、それらの知識や技能を身につけ、活用できることが重要です。

語句の用法を正しく理解し用いることや、正しい表現を用いて文を書く力に課題がみられます。

